

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神埼市立千代田東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した道徳教育の取組により、児童の自己肯定感が向上した。 ・標準学力検査では、全国平均値より5ポイント以上を上回り、佐賀県小・中学校学習状況調査では、県平均値より3ポイントを上回ることができた。 ・健康・体づくりに関して、スポーツチャレンジへの取組はできたが、夜更かし等の割合が多く、生活習慣において課題がある。
2 学校教育目標	「渾身勉学」「白鳥蘆花に入る」 ～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 児童の育成 ～

3 本年度の重点目標	①自分づくり(心の安心を育む学校風土の確立と児童の自己肯定感の向上) ②仲間づくり(地域を生かした教育活動の推進と豊かな体験活動の充実) ③学びづくり(確実な学力向上と道徳教育の充実・発展)
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	
---------------	--------	--

(1) 共通評価項目				最終評価		主な担当者		
重点取組			最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上 (学びづくり)	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・毎学期マイプランを見直し、共通する課題等を研修会等で共有する。「授業づくりのステップ1・2・3」を基にした指導の手立ての確立の促進を図る。	A	・マイプランの達成は、90%であった。校内研修等で、「授業づくりのステップ1・2・3」の共通理解を全職員で図り、「話し合い活動」について、指導法を深めることができた。	A	・教職員によるマイプランへの達成状況の回答が90%と高く、共通理解と共通実践ができたと評価できる。	学力向上Co
	○家庭学習の習慣化	○学年に応じた家庭学習時間を行う児童を95%以上	・毎学期「学習がんばろう週間」を行い、家庭での学習の時間と内容の確認を保護者とともに図る。学校で「小学生新聞」の活用を行い、家庭でも新聞に親しませる。	A	・家庭学習平均時間は、1学期より多くなり、一定の成果が見られた。また、「小学生新聞」「週末課題」「小学生新聞クイズ」の活用により、新聞や文章に対する興味・関心が高まった。	B	・家庭学習については、学校側の指導は十分に行われているものの、児童と保護者双方が不十分と判断している。	学力向上Co
●心の教育 (自分づくり)	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分には、よいところがあると思う」児童90%以上	・「心タイム」等で、「ありがとう」「よさみつけ」「心の木」カードを、一年間に25枚以上書かせる。	A	・アンケート結果は1学期より8%多い90%と目標達成。カードを書く活動やエンカウンター取組が、児童の自己肯定感の向上へとつなげることができた。	A	・アンケートの結果や学校だよりなどにより、十分な心の教育が実施されていると判断できる。	自分づくり部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等についての組織的対応ができていると回答した教員95%以上	・児童の「いのち観」や「人権意識」を高める人権・平和教育の推進として、「いのちを考える日」や人権・平和集会の充実を行う。	A	・アンケートの結果は100%。2学期も毎月心アンケートの結果を全職員で共有できた。人権・平和集会の取組により、いじめ防止の意識が高まった。	A	・近年、いじめ防止に取り組まれており、その成果が表れている。全教職員での早期対応を、これからももっていただきたい。	生徒指導 教育相談
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」と回答する児童の割合90%以上	・「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動の充実のために、ボランティア活動や対話的な道徳教育の推進、「キャリアパスポート」の活用に取り組む。	・「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動の充実のために、ボランティア活動や対話的な道徳教育の推進、「キャリアパスポート」の活用に取り組む。	A	・アンケート結果は99%だった。キャリアパスポートを活用して、意識して取り組むことができた。道徳教育の中で、目標に向かって粘り強く努力することもできた。	A	・児童に夢をもたせ、自信をつけさせるための工夫(誉める、エネルギーを与える)がこれからも必要だろう。
●健康・体づくり (仲間づくり)	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で300分以上の児童80%以上	・体育的行事やスポーツチャレンジ、縦割り活動、保健運動委員会による体力づくりへの取組を行う。	A	・屋休みに外で元気に遊んでいる児童が94%。長縄集会を企画し、実施したことが結果につながった。次年度は、「運動頑張ろう週間」を設定し、体力の向上を図る。	A	・これからもスポーツチャレンジへの取組を継続していただきたい。また、社会体育との共存を図るべきと考える。	体育主任
	●「望ましい生活習慣の形成」	○学年に応じた就寝時間を守る児童の割合80%以上	・生活アンケートから児童の実態を把握し、家庭での過ごし方(勉強やゲーム等の時間)のルール作りなどの啓発を行う。	A	・80.2%の児童が就寝時間を守っていたが、前回より低下していたため、継続して「ほけんだより」で家庭へ啓発し、感染症対策とつなげていく。	A	・就寝時間については、児童と保護者双方の評価が低い。家庭でのテレビゲームが原因なのではないだろうか。	生徒指導 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する	・18:15の退勤時間と毎週金曜日の定時(17:30)退勤日を職員に周知し、その履行を促す。	A	・2学期中の時間外勤務時間も、毎月45時間を下回った。体育大会や修学旅行などの学校行事が多かったが、時間外勤務時間の削減の達成が継続できている。	A	・教職員の多忙化が問題となっており、先生への就職希望の人数低下にもつながっているのではないだろうか。その対応をこれからも続けていくべきだろう。	教頭
	○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指した働き方改革の推進	○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	・校務用フォルダの整理・活用、提出文書の内容精選や、校務分掌の平準化を行い、全職員で協力的に教育活動を行う。各個人の意識を改革し、自覚的な働き方改革に取り組ませる。	A	・「自分の職務や役割に応じて自分の力を発揮できている」に関して、100%が「あてはまる」の回答。疲労感の回答でも負担度が低く、働きやすい職場となっている。	A	・教職員の多忙化が問題となっている中で、疲労感の回答は、「負担度が低く」働きやすい職場となっているのは評価できる。	教頭 養護教諭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者		
重点取組			最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○地域の特色を生かした教育 (仲間づくり)	○地域教材の活用 (「次郎の里」教育の実践)	○「千代田の町や人が好きです」と回答する児童95%以上	・下村湖人生家体験学習を、各学年1回実施する。	A	・96%の児童が「好き」の回答。各学年で地域の特色を活かした学習(主に生活科や総合的な学習の時間)を行ったことが目標達成につながった。	A	・郷土愛(遺跡などの歴史)を学習させてほしい。大人になって地域を離れる人が多い現状なので、学校教育の取組にも期待したい。	特別活動主任 教務主任

5 総合評価・ 次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・「児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動」を重点的に取り組んだ結果、児童へのアンケートの「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」と回答の割合が99%であった。十分に達成できたと考えられる。 ・コロナ禍ではあったが、「次郎の里」教育の実践に重点的に取り組み、「千代田の町や人が好きです」と回答する児童が96%であった。地域の特色を生かした教育の成果であると考えられる。 ・家庭学習の習慣化においては、毎学期の家庭での「学習がんばろう週間」や、自学ノートの推進などを行ってきたが、家庭学習時間の目標を達成した児童の割合は82%と、数値目標の95%を下回った。来年度の課題である。
--------------------	---